

## 凧の話



田中 光男 (札幌凧の会会長)

### 凧との出会い

1965年、私は札幌郊外に開業した総合レジャー施設「手稲オリンピック」に入社しました。24歳の春でした。創業間もない会社は何かお客様を喜ばせる企画はないかと考えた末、「凧だ」ということになりました。担当が一番若い「田中、お前やれ！」という事になりました。有無を言わせぬ業務命令です。凧など全く知らなかった私は全国の凧どころを訪ね、懸命に凧の勉強をしました。そしていきなり作り上げたのが10畳の大凧です。これが人気を呼び、どんどん大きな凧、珍しい凧に挑戦していくこととなります。

### 「連だこ」へ、そして全国区へ！

1973年、凧をいくつもつなげて揚げることを始めました。「連結だこ」とかいろいろ名前を考えましたが、結局「連だこ」と呼ぶことに決めました。この連だこが大変な人気を呼び、テレビにもしばしば取り上げられるようになりました。1975年、札幌テレビの「びっくり日本新記録」という番組に取り上げられ、さらに横浜テレビのお正月特番で江の島で連だこをあげました。これが大変な反響を呼び、出演依頼、イベント出場依頼が殺到するようになりました。

大きな部署の長になっていた私は、これでは勤め先に迷惑をかけることになると思い、退職することに致しました。決して小指がらみで首になった訳ではありません。

### 焼き鳥屋 → 凧屋 → 世界へ

勤めを辞めて、昼は凧を作り、夜は生活のために焼き鳥屋、食堂を始めました。これも大繁盛で、たちまちいくつもの支店を持つほどになりましたが、あるきっかけでその仕事も整理してよいよ「凧屋」専業になりました。そして本格的に海外へも進出することになりました。中国、韓国に幾度も招かれ、そのたびに多くの賞も頂きました。北京に招かれて大競技場で何万人の大観衆の前でまるでオリンピックのように各国代表と競い合った時は感激しました。

大凧を揚げるには広い場所が必要です。石狩の浜をお借りして2,000枚の連凧を揚げたり、パラシュートの布地でたたみ100畳の骨なしパラシュートを揚げたり、お話ししたいことは数限りなくあります。100畳の凧ですと60kgの私の体など簡単に空に持って行かれます。

「たこ」か、「いか」か、

はたまた「はた」か？

関東では「たこ」といいますが、関西では「いか」といいます。長い尾を垂らして空を飛んでいる姿がそれぞれ蛸や鳥賊に似ているからでしょう。そして長崎では「はた」と言います。漁師が漁船に飾る大漁旗

から来ていると言われています。長崎で行われる「はた合戦」は相手の「はた」の糸を切るという荒っぽいものです。

ちなみに、中国では風箏（ふうしよ）、神鳶（しえん）と言っています。

## 凧の形

多くの日本人は凧と言えば四角いものと思っていますが、決してそんなことはありません。むしろ、四角い凧は世界では珍しい部類に属します。力学的に言えば凧は丸でも三角でもどんなかたちでも構いません。世界の主流は「鳥」「蝶」「蝉」など空を飛ぶ者もの姿をそのまま映したものです。日本でも角凧のほかにやっこ凧も有名です。

韓国の凧も伝統的に四角ですが、面白いのは真ん中に丸い穴が開いていることです。これは風を逃がして揚力を生み出すためです。マレーシアの凧は私たちには上下さかさまのように見えるな凧もあります。

## 日本の凧の歴史

日本でも古くから凧が揚げられていました。江戸時代には「凧禁止令」が出たこともたびたびありました。中国から西日本に入った「いか」が参勤交代を通じて日本全国に広がったと考えられています。

空高く揚がる姿から「出世凧」の名もあり、正月などお目出度い時に揚げられることがよくありました。特に、男の子が生まれるとお祝いに凧を揚げる習慣は各地にあります。

凧を安全に揚げる場所もだんだん少なくなり、凧揚げをする子供も少なくなっているのが残念です。20数年前から北星学園やそのほかの大学、高校などで凧揚げを教え、後世に凧を伝えていこうと頑張っています。来年は札幌で「全国凧揚げ大会」が行われます。応援して下さい。

(札幌クラブブリテン:2012年6月号)